

中国新聞 2017/11/2



東京大名誉教授

西田友是さん(68)＝広島市安佐北区

CG分野のパイオニア

「広島発の技術がテレビや映画の基礎になつている。広島にも恩返しできた」と自負する。CG業界を引っ張ってきたと自負する。CG分野のノーベル賞と評されるクインズ賞などアジア人初の栄冠を相次ぎ獲得。所属学会に「西田賞」もある。

広島大と同大大学院で中前栄八郎名誉教授に師事。民間企業勤務を経て福山大や東京大で教えた。現在は広島修道大で教授として教壇に立つ一方、IT大手ドワンゴ(東京)のCG研究所長も務める。「死ぬまで研究者、プログラマーでいたい」。新たな技術を探し求め、発展を続けるコンテンツ産業を支える。(山田英和)



脚本家 三谷幸喜さん(56)

笑い原点 喜劇生み出す

「当代理の喜劇作家は紫綬褒章の受賞決定の会見でもユーモアを忘れた。居並ぶ記者に「なんか謝罪しなきゃいけないような感じで」。本当に、申し訳ありませんでした」と頭を下げてみせ、笑いを誘った。

個人、団体が対象の緑綬褒章は、保育所や特別支援学校での絵本の読み聞かせ活動を行っている徳島県藍住

秋の褒章 775人22団体

紫綬 西田さんや二谷さん

政府は2017年秋の褒章受章者を2日付で発表した。受章者は775人(うち女性1,003人)と22団体で、3日に発令される。学問や芸術などで功績を残した

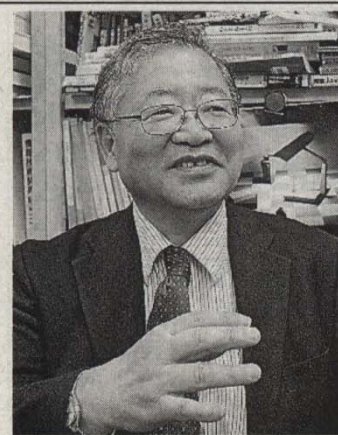
人に贈られる紫綬褒章に脚歌人の小島ゆかり(本名・横井ゆかり)さん(61)、作曲家の松本隆さん(68)、建築家の坂茂さん(60)、将棋

棋士の森内俊之さん(67)、東京大名誉教授の西田友是さん(68)＝広島市安佐北区に選ばれた。紫綬褒章は18人(うち女性4人)。夫婦漫才コンビ

一宮川大助・花子」で知られる松下孝美さん(68)、美賀代さん(63)、ピアノ演奏家の小山実雅恵(本名・高橋実雅恵)さん(58)も受賞した。

その道一筋に励んだ人をたたえる黄綬褒章は、30人以上塗装工業界に従事した加藤憲利さん(58)＝東京都品川区＝249人(うち女性18人)。

社会奉仕活動に取り組む個人、団体が対象の緑綬褒章は、保育所や特別支援学校での絵本の読み聞かせ活動を行っている徳島県藍住



東京大名誉教授

西田友是さん(68)＝広島市安佐北区

CG分野のパイオニア

「広島発の技術がテレビや映画の基礎になつている。広島にも恩返しできた」と自負する。CG業界を引っ張ってきたと自負する。CG分野のノーベル賞と評されるクインズ賞などアジア人初の栄冠を相次ぎ獲得。所属学会に「西田賞」もある。

広島大と同大大学院で中前栄八郎名誉教授に師事。民間企業勤務を経て福山大や東京大で教えた。現在は広島修道大で教授として教壇に立つ一方、IT大手ドワンゴ(東京)のCG研究所長も務める。「死ぬまで研究者、プログラマーでいたい」。新たな技術を探し求め、発展を続けるコンテンツ産業を支える。(山田英和)

中国新聞 2017/11/2

2017年 11月2日 第1777号

秋の褒章 県内から16人

3日に発令される秋の褒章受章者に、県内から男性14人、女性2人の計16人が選ばれた。仕事に打ち込んだ黄綬8人、科学技術や芸術などで優れた業績をあげた紫綬1人、公共の利益や産業の振興に貢献した藍綬7人。このうち4人に喜びの声を聞いた。(27面関連)

他の受章者は次の皆さん。
 (敬称略、年齢は発令日現在)
 【黄綬】宇都宮昭彦(62) 長浜産業社長、長浜市
 【紫綬】山本雅志(50) 三重重工機械システム印刷紙工機事業本部生産管理課外製機士1級機械操縦特別技能士2級(特別取扱) 能士2級(特別取扱) 長浜市
 【藍綬】西田友是(68) 東京大名大学教授、広島市
 【藍綬】奥村久美子(65) 調停委員、東広島市
 【藍綬】藤原誠(65) 県議会議員、東広島市
 【藍綬】中尾保博(76) 保険司、広島市南区
 【藍綬】安俊道(86) 教師(きょうか) 師、福山市

中電工記電安全品質部 専任副長 田川幸二さん(49)

2000年から感電リスクが少ない作業機「ホツトステック」を積極的に使用。効率的な使用方の研究やマニュアル作りに参画した。高任職に触れない安全な作業の普及に貢献し、国の「現代の名工」に選ばれた。

黄 綬

配電線架設工などとして電力供給に尽力し30年。「電気を使える日常を支える」。これまでに登った市内各地の電柱を仰ぎ見るたびに気を引き締める。

田川幸二さん(49)

2000年から感電リスクが少ない作業機「ホツトステック」を積極的に使用。効率的な使用方の研究やマニュアル作りに参画した。高任職に触れない安全な作業の普及に貢献し、国の「現代の名工」に選ばれた。

電気守る安全作業普及

07年からは新入教育も担当。「機械化が難しい職人技。雨の日も雪の日もライフラインを守る黒子を育てたい」(選部公理)

藍 綬

1977年の入社以来、ガス製造や原料調達を担当し2010年から7年間社長を務めた。ガス事業の安定供給と安全・安心に惜しまない努力

田村興造さん(66)

広島市安佐北区司部南

藍 綬

「自立しないが社会の安全安心を支える仕事。公共性も自覚してきた」。ビルの清掃や維持管理を手掛ける会社を経営し、業界の県組織の会長を2

元広島ビルメンテナンス協会会長 中野信博さん(68)

広島市安芸区中野

ビル保全 社会に安心

007年から6年務めた。現在は全国組織の副会長をしている。作業の質や点検能力を認定する制度を設けるなど業界の改革に取り組んだ。特別支援学校に清掃技術の講師を派遣するなど障害者や高齢者の就労の後押しにも力を入れる。「スクラップアンドビルドより長寿命化の時代。ビルメンテナンスの重要性は増す」と後輩を励ます。(田中伸武)

選挙の重要性を伝える

いさつを心掛けている。近年は投票率が下がっており、若者の票も少ないと感じて心を痛めている。「選挙は人ごとではなく、生活に直結すると伝えなければいけない」と話す。うれしい出来事もあった。10月22日の衆院選投票日、珠算塾の教え子だった高校生が両親と祖母を誘って投票に来た。「小さな頃から選挙の大切さを伝えてきた。種が実った」とほほえんだ。(山田祐)

藍 綬

珠算塾を営む傍ら、1983年から推進員として投票所の立会人を務めてきた。投票した人に次の選挙でも足を運んでもらうため、元気のよいあ

藍 綬

竹原市明るい選挙推進協議会副会長 荒川幸子さん(73)

竹原市港町

日経工業新聞 2017/11/2

授褒章者に選出され、発令は11月3日です。予定している。(5面)

田宏社長、モリタホ一氏は名誉教授らが選ばれた。

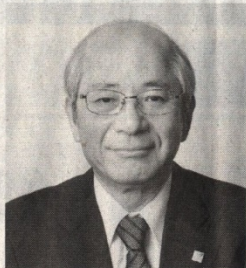
05

11月2日・木曜日 2017年(平成29年)

日刊工業新聞

このたびは、はからずも受章の栄に浴し、身に余る光栄に存じます。受章は関係各位の長年にわたるご指導、ご支援や地域の皆様、お客様のご愛顧の賜物であり、心からお礼申し上げます。

努力を重ねてきた弊社従業員のおかげもあり、会社を代表していただくものと受け止めています。変化の中にあるエネルギー業界において、今後とも関係各位の信頼関係を一層強固なものとし使命達成と地域発展のため、尽力して参りたいと存じます。



広島ガス元社長
(現会長)

たむら こうぞう
田村 興造氏

藍綬褒章受章の栄に浴し、身に余る光栄と存じます。1991年から西部金属熱処理工業協同組合の役員として今日まで業界の地位向上と発展に寄与できた結果と受け止めております。熱処理業は日本のモノづくりの根幹をなすものであり、技術伝承と人材育成は最重要課題です。諸先輩方からの伝統を引き継ぎ、後継につなぐ担い手として今後も微力ながら業界のため全力で邁進して参ります。ご指導、ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

(大阪市西区)



西部金属熱処理工業協同組合理事長

くすむら かずまさ
葛村 和正氏

藍綬褒章受章の栄に浴し、誠に光栄に存じます。幼稚園教諭から保育事業での起業という異色の道を歩む中、先輩経営者の御指導を賜りたく「とちぎニュービジネス協議会」に入会しました。2012年からは会長として「起業家の発掘・育成による地域貢献、社会貢献」を掲げ、邁進して参りました。

51歳という年齢での受章は支えてくださった皆様あってのもの感謝しております。感謝を力にさらなる精進を重ねて参る所存で



とちぎニュービジネス協議会会長(キッズコーポレーション社長)

おおつか まさかず
大塚 正一氏

このたび藍綬褒章受章の栄に浴し、身に余る光栄と存じます。私はトヨタ自動車に入社以来30年以上にわたり自動車製造業に従事して参りました。取引先の皆様、関係者の皆様、そしてなにより、製品をご愛用いただいている世界中のお客様のおかげと、こころより感謝申し上げます。

先人たちの「志」を継承し、「トヨタのものづくりの心」をしっかりと胸に刻み、車づくりを通してよりよい未来のモビリティ社会を切り開いて参りたいと存じます。



トヨタ自動車社長

とよだ あきお
豊田 章男氏

秋の褒章

紫綬褒章受章の栄に浴し、身に余る光栄に存じます。コンピュータグラフィックス(CG)は映画やスマートフォンなどの画像技術に使われており、CGの研究者として今でも研究に取り組んでいます。私を支えてくださった大学や企業、各種団体の皆様のおかげで、このような栄誉を授かりましたことに感激しております。

このたびの受章で日本のCG研究の存在感を世界に示し、業界が活気づききっかけになればと思っております。



東京大学名誉教授/広島修道大学教授/ドワンゴUEIリサーチ所長

にした ともゆき
西田 友是氏

秋の褒章 県から16人

秋の褒章で県内からは16人が受章した。仕事一筋に励み、模範となった人への「黄綬」に8人、科学技術や芸術分野などで優れた業績を上げた人への「紫綬」に1人、社会福祉に貢献した人への「藍綬」に7人が選ばれた。3日付で発令される。

褒章受章者

宇都宮昭憲 62 (長浜産業社長) ◇:黄綬◇
 来山 淳平 84 (豊工)
 田川 幸二 49 (中電工教育担当専任副長)
 西本 昌弘 63 (元東亜地所社長)
 橋本 孟士 74 (元和歌山下津水先区水先人)
 益川 弘 72 (備後バルブ製造所代表取締役)
 松本 雅志 50 (三菱重工機械システム機械職特別技能士2級)
 三原 三原 職特
 福山 福山
 福山 具
 西田 友晃 68 (東京大名管教授) ◇:紫綬◇
 森田 充泰 62 (JFEスチール西日本製鉄所シニアエキスパート) ◇:藍綬◇
 荒川 幸子 73 (竹原市明るい選挙推進協議会副会長)
 奥村久美子 65 (調停委員)
 季平 顕道 77 (保護司)
 田村 興造 66 (元広島ガス社長)
 中尾 建三 76 (保護司)
 中野 信博 68 (元広島ビルメンテナンス協会会長)
 広安 俊道 86 (教師) ◇:藍綬◇
 福山 安芸
 福山 安芸

読売新聞 2017/11/2



読売新聞 2017/11/2

人22団体

躍した 美智代さん(63)夫妻、建築家は18 家の坂茂さん(60)らが選ばれた。

の三谷 産業振興や社会福祉に業績を上げた人への藍綬褒章はトヨタ自動車社長

の豊田章男さん(61)ら475人、各職業分野で一筋に励んだ功績をたたえる黄綬褒章は249人だった。

人命救助に尽力した人への紅綬褒章には4人、社会奉仕活動に尽くした人への緑綬褒章には29人と22団体が選出された。

- 【紫綬褒章受章者】(敬称略、かつこ内は芸名など、年齢は発令日の3日時点)
- 東北大名管教授 山谷知行
 - 研究センターチームリーダー 宮脇敦史(55)▽ピアノ演奏家 高橋実雅恵(小山実雅恵)(58)
 - ▽東大教授 羽田正(64)▽建築家 坂茂(60)▽作詞家 松本隆家(68)▽脚本家・演出家 三谷喜(56)▽歌人 横井ゆかり(小田友星(68))
 - 【紫綬褒章受章者】(敬称略、かつこ内は芸名など、年齢は発令日の3日時点)
 - 東北大名管教授 山谷知行
 - 研究センターチームリーダー 宮脇敦史(55)▽ピアノ演奏家 高橋実雅恵(小山実雅恵)(58)
 - ▽東大教授 羽田正(64)▽建築家 坂茂(60)▽作詞家 松本隆家(68)▽脚本家・演出家 三谷喜(56)▽歌人 横井ゆかり(小田友星(68))
 - 【紫綬褒章受章者】(敬称略、かつこ内は芸名など、年齢は発令日の3日時点)
 - 東北大名管教授 山谷知行
 - 研究センターチームリーダー 宮脇敦史(55)▽ピアノ演奏家 高橋実雅恵(小山実雅恵)(58)
 - ▽東大教授 羽田正(64)▽建築家 坂茂(60)▽作詞家 松本隆家(68)▽脚本家・演出家 三谷喜(56)▽歌人 横井ゆかり(小田友星(68))

秋の褒章 75人22団体

政府は2日付で、2017年の分野で活躍した美智代さん(63)夫妻、建築家は18人の坂茂さん(60)らが選ばれた。

産業振興や社会福祉に業績を上げた人への藍綬褒章はトヨタ自動車社長



根っからの喜劇作家だ。取材陣を前にするなり、「非常に戸惑っています。謝罪しなくちゃいけないような……本当に申し訳ありませんでした」と頭を下げて笑われた。

幼い頃から喜劇好きで、小学生の時には、早くも自作のコメディを友達の前で披露した。大学時代に旅揚げした劇団を経てテレビ、映画にも進出。舞台「笑の大学」、映画「ラチオの時間」、NHK大河ドラマ「真

悩み抜き 絞り出す喜劇

田丸「など、緻密な構成と登場人物の心理を巧みに描いた作品で評価された。」

「笑いは僕にとって最も大事なアイテム」と語るが、執筆は悩み抜き「毎回絞り出すような感覚」という。シャワーを浴びた後、体を拭いている時にアイデアが浮かぶように、1日1回、6回も浴びることも、それでもいいとは思えない。「仕事とどうすり、好きでやっていることですか」

記憶に残る作品が多いが、実は「これはやめたぞ」と自負できるものが少ない。「一本でもやりたい早くそういう作品を作りたい」。食欲に笑いを追求し続ける。



ピアノ演奏家 小山実雅恵さん 58

希望、喜び 音楽で届ける

で膨大なレパートリーを持つ年間約60回のコンサートに演。今年5月は、30枚目のアルバムとなる「パッパ、ゴッベルク変奏曲」もリリースされた。繊細で力強さを併せ持つ演奏が持ち味。

2011年の東日本大震災は、生まれ育った宮城、岩手県が被災した。被災地の学や公共施設での演奏を続け、おりに、「どんなに苦しみやうにみに満ちても、生きることが希望にあふれている。私自身が気づかされた」という。

「音楽は人の心に希望や喜びを与えるもの」と信じて、これからも弾き続ける。

漫才師

宮川大助さん 68
花子さん 63



大病越え円熟の笑い

2人の絆で幾度も大病を乗り越え、優しさと明るかさあふれる夫婦漫才のスタイルを切りひらいてきた。

「2017年は、たぐさんの『しょう』がありました。(大助さんの)腰挫や柱管狭窄症、感染症、並びにクラム陽性菌敗血症。最後に、こんなに素晴らしい褒章をいただけるなんて」。花子さんが漫才師らしく喜びを表現すると、大助さんは「感無量であるのと同時に責任を感じます」と気を引き締めた。

1976年に結婚し、79年、年輪に合わせた漫才年にとコンビ結成。次々に賞を獲得して人気を得たが、88年、花子さんが胃がんが見つかる。大助さんは07年に脳出血を発症。今、年輪は2度、腰の手術を受け、入退院を繰り返した。

共に60歳代。「だんだん枯れていく漫才ですけど、良かっただ。今後も支え合っていく。精進していく覚悟だ。」

「今が夫婦として一番良かった。生きたくて良かった。今後は支え合っていく。精進していく覚悟だ。」

障害者不妊手術施設 記念誌で肯定的表現 兵庫県立でも

79年、年輪に合った。花子さんが「あなたは大丈夫です」と大受け。今、生き生きとした。今、良かっただ。今、精進していく覚悟だ。」



大病越え

褒章をいただけるなんて。花子さんが漫才師らしく喜びを表現すると、大助さんは「感無量であるのと同時に責任を感じます」と気を引き締めた。

第4784回ナンバース (1日夕公表) は当日口数

【ナントレート】	046
【ストレート】	54
【ナントレート】	313
【ストレート】	141
【ナントレート】	629
【ストレート】	473
【ナントレート】	41
【ストレート】	3880
【ナントレート】	13
【ストレート】	174
【ナントレート】	52
【ストレート】	755

第31回ピンゴ5 (1日夕公表) は当日口数

【ナントレート】	13
【ストレート】	174
【ナントレート】	52
【ストレート】	755

日本経済新聞 2017/11

17年(平成29年)11月2日(木曜日)

13版

社会

紫綬褒章

山谷 知行 67
 宮脇 敦史 55
 高橋実稚恵 58
 (小山実稚恵)
 羽田 正 64
 東北大名誉教授(宮城)
 理化学研究所脳科学総合
 研究センターチームリ
 ター
 ピアノ演奏家
 (埼玉)
 (東京)

坂本 茂 60
 松本 幸隆 68
 三谷 幸喜 61
 横井ゆかり 67
 (小島ゆかり)
 藤沢 順一 47
 森内 俊之 47
 建築家
 作詞家
 脚本家
 歌人
 撮影監督
 将棋棋士
 (東京)
 (東京)
 (東京)
 (東京)
 (神奈川)
 (神奈川)

貝淵 弘三 62
 川合 真紀 65
 津田 敏隆 65
 橋田 充 65
 松田 孝美 68
 (宮川大助)
 松下美智代 63
 (宮川花子)
 小溝 裕一 67
 西田 友是 68
 名古屋大教授(愛知)
 自然科学研究機構分子科
 学研究所長(愛知)
 京都大名誉教授(滋賀)
 京都大名誉教授(京都)
 漫才師(大阪)
 漫才師(大阪)
 大阪大名誉教授(兵庫)
 東京大名誉教授(広島)

朝日新聞 2017/11/2

紫綬褒章の受章者

(敬称略)

- 〈学術〉東京大教授羽田正
- (64)▽東京大名誉教授西田友是
 - (68)▽京大名誉教授津田敏隆
 - (65)▽自然科学研究機構分子科学研究所長川合真紀(65)▽大阪大名誉教授小溝裕一(67)▽理学研究所脳科学総合研究センターチームリーダー宮脇敦史(55)
 - ▽東北大名誉教授山谷知行(67)
 - ▽名古屋大教授貝淵弘三(62)▽

京大名誉教授植田充(65)

- 〈文化〉建築家坂茂(60)▽歌人小島ゆかり▽本名横井ゆかり
- (61)▽ピアノ演奏家小山実稚恵
 - ▽本名高橋実稚恵(58)▽脚本家・演出家三谷幸喜(56)▽撮影監督藤沢順一(67)▽漫才師宮川大助▽本名松下孝美(68)▽同宮川花子▽本名松下美智代(63)▽作詞家松本隆(68)▽将棋棋士森内俊之(47)

(年齢は発令される3日現在。氏名の表記は原則として朝日新聞の用字としました)

秋の褒章 75人 22団体

脚本家の三谷幸喜さんら

学術や芸術、社会福祉など、様々な分野で功績のあった人をたたえる2017年秋の褒章の受章者が決まった。政府が2日付で発表した。受章するのは75人

人と22団体。団体を除くと、受章者のうち女性はいらぬ。21・0%だった。3日に発令する。

学術研究や芸術文化などへの功労者が対象の紫綬褒章

を救助した。

公共の利益などに貢献した藍綬褒章は、トヨタ自動車の松本隆さん(68)、澤野師範の宮川大助さん(63)と花子さん(63)が受章する。

危険を顧みず人命救助にあたった人に贈られる紅綬褒章は4人、今年初の受章者で最年少だった山田太郎さん(30)は昨年11月、東京都新宿区で、火災が起きた

- 紫綬褒章の受章者
- (敬称略)
- 〈学術〉東京大教授羽田正
 - (64)▽東大名誉教授西田友是
 - (68)▽京大名誉教授津田敏隆
 - (65)▽自然科学研究機構分子科学研究所長川合真紀(65)▽大阪大名誉教授小溝裕一(67)▽理学研究所脳科学総合研究センターチームリーダー宮脇敦史(55)
 - ▽東北大名誉教授山谷知行(67)
 - ▽名古屋大教授貝淵弘三(62)▽

年齢は発令される3日現在。氏名の表記は原則として朝日新聞の用字としました

脚本家・演出家 三谷幸喜さん



「俳優やスタッフがいなければ、僕はただの空想癖のおじさん。みなさんがいたら褒章できた」と照れくさそうに笑う。喜劇にこだわ。小学生の時、同級生と初めてコメディ作品を作った。1983年、日本大学芸術学部在学中に「劇団東京サンシャインボイス」を結成。当初は俳優をしていたが、「他の人たちが演じた方が面白くなる」と裏方に回るようになった。83年の連続ドラマ「振り返れば奴が」(石川夏樹)をほじく。主演三郎「真

生きる勇気わく喜劇

田丸、映画「予オの時間」、舞台「オケレ」など多くの人気作で、オリジナルの脚本を書いていた。「95年の締め切りに間に合わず、死ぬしかないと思っただけ、放浪されていたイギリスの喜劇作品を見て笑ってしまった。人はどんな時でも笑いたい。そういう作品を書こうと思った」と言う。

笑いの力を信じ、これからも突き進む。「社会を変える、権力批判になる笑いもある。でも、僕の笑いはそのうらみ風に使ってほしい。ほんのちよっとだけ、生きる勇気がわく、前向きにやってみようと思う。そんな芝居を作っていくきたい」

(石川夏樹)

漫才師 宮川大助さん・花子さん



「たくさんの『ヨウ』を今年はいったきました。脊髄損傷、狭心症、感染症、並びにグラム陽性菌敗血症。最後に、「量」をいただけるなんて、花子さんは話す。

大助さんは今春から3度にわたって入院し、9月に舞台復帰したほか、「自分たちが目指した賞レースの賞」やなくて、まさかこういう形のものを見たことはない」と、大助さんは思わ

夫婦の絆で試練乗り越え

1976年に結婚、79年のシを組み、しかり者の妻。夫の芸風で人気を得た。88年に花子さんが胃がんが見れるなど、2人の歩みは常にもろかった。乗り越えてこは、お互いを「地上最強の味」夫婦の絆あつてこそだ。

「うちの奥さんには僕はおめ」と言いたい。大助さんが語っていただくと、勢を止す。男泣きさんの涙をハンカチでぬぐいながら話していた。本が「漫才に誘っていた」と語り、「生涯で初めて言ってもらった。大助さんから涙が漏れた。